

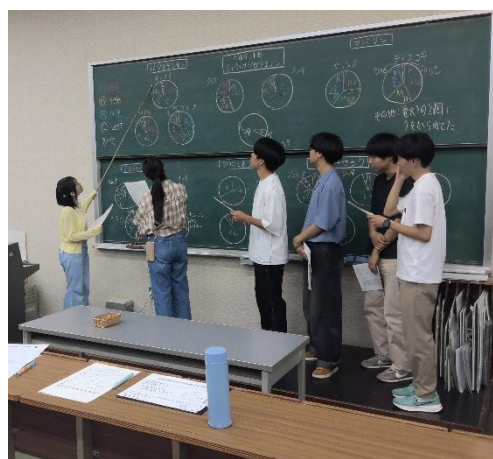
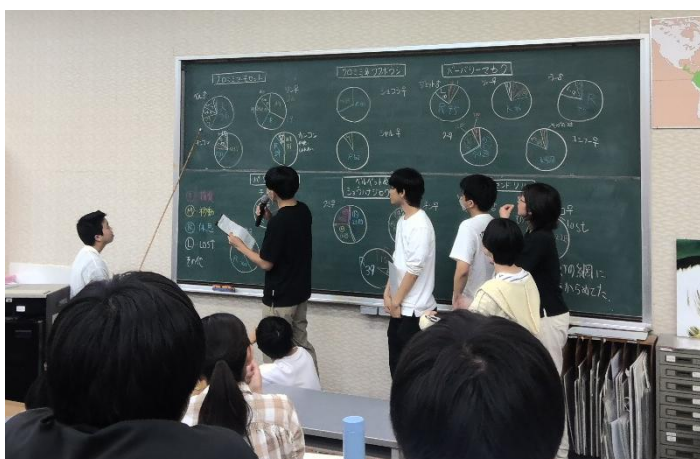
R8 理数コース校外実習（3年生）

モンキーセンター実習 霊長類の行動観察

5/21(木)にモンキーセンターで霊長類の行動観察をする実習をしてきました。モンキーセンターの赤見さんのレクチャーのもと、特定の個体の行動を30分間観察し、その行動から個体間の関係性やその種の特性、家族の在り方などを考察しました。普段の生活では動物の様子をただ眺めて、表面的な鑑賞をして通り過ぎてしまいがちですが、動物の行動を詳細に観察する体験を通して、身の回りのヒト以外の生物や自然環境に対する理解を深めることができました。また、ヒトにとっての当たり前は他の生物にとっては当たり前ではないということを知り、ヒトの行動やあり方を俯瞰して見る視点を獲得できたのではないかと思います。



行動観察の様子



発表の様子

生徒の感想

生物を「研究するため」に観察するという事は、初めての体験だったので大変新鮮な気持ちになりました。そして観察の記録をすることの難しさを実感しました。生物の行動はすぐに終わるため、早く生物の行動をメモすることや相方との連携が重要だと感じました。また、メモに関しては、どこまで行動の些細なことを書くのか、または、どの特定の行動・どの時間帯など、何に注目するのか、他にも沢山ありますが、いったい「何を書くのか」を定義することが想像より難しく、そういったことでも苦労しました。

また、観察だけでなく、考察も難しかったです。猿たちの行動が「種族」「年齢」「個体の個性」などの、どの要素から誘発されたかを論理的に判断するのも難しく感じました。

難しいと感じる場面が多々ありましたが、その分多くの学びを得ることができ、楽しかったです。今回の生物観察で新たな視点を得ることができたと思います。

今日の実習で3つの動画が特に印象的だった。1つ目は、1体のサルが餌を川で洗ってから食べ始め、その行動をほかの個体も真似していた動画である。ただ本能で動くだけでなく、仲間の行動を見て学習していることに驚いた。

2つ目は、チンパンジーの記憶力の実験である。数字が一瞬表示されたあと消えるパネルで、チンパンジーが数字の位置を正確に覚えて順番に押していた。人間でも難しいことを簡単にできて、記憶力の高さに驚いた。

3つ目は、オキマザルの報酬の実験である。同じ作業をしているのに、一方には特別な餌が与えられ、もう一方には普通の餌しか与えられないと、不満そうな様子を見せていた。サルにも公平・不公平を感じる感情があることが分かった。

また、実際にサルを瞬間記録して観察した。じっと休んだり、普段の生活の様子を詳しく知ることができた。

猿と人間はどちらが優れているといえるわけではなく、猿には猿の得意なこと、人間には人間の得意なことがあるのだとわかった。また、猿と人間には共通点も多くあり、猿の研究が人類の発展に繋がる可能性があることもわかり、有意義な時間だった。

時間を区切って自分で観察し、小さなことからでも関連付けて考察することを普段はしないのですごく面白かった。猿だけでも生活に色々差が出るのがわかってよかった。